

お日さま・森プロジェクト 市民ファンドアンケート結果のご報告
～単純集計・フリー項目まとめ～

2013年12月6日
株式会社コッコト 飯島直美

「太陽光発電市民ファンド」による「メガソーラー発電・売電事業」実現の可能性を探るべく、インターネットによるアンケート調査を行った。このレポートでは、設問ごとの単純集計の結果を報告する。

調査期間・方法・条件は以下のように行った。

【調査期間】

2013年11月20日(水)～2013年11月21日(木)

【調査方法】

インターネット調査

【配信対象条件】

子育て世代(注1)・孫世代にターゲットを絞った。50代は子どもの教育費にお金がかかり、且つ子育て世代・孫世代から外れるため、除いた。また、割付では投資金額に期待が持てる60代の割付を50%に設定し、250サンプル取得した。更に、世帯年収300万円未満は投資への余裕がないと判断し、世帯年収300万円以上の人を対象とした。且つ、環境貢献に興味がない人から回答を得ることは難しいと判断し、「環境貢献に興味がある」「どちらかと言えば興味がある」人を対象とした。

注1:国民生活白書によると、子育て世代の定義は「これから結婚しようとする人～大学生の子どもがいる世代」
年齢は便宜上20-49歳

回収数 :500サンプル

割付 :25歳～29歳:50, 30代:100, 40代:100, 60代以上:250

年齢 :25歳～79歳(50代は除く)

性別 :男女

配信地域:埼玉県

世帯年収 :300万円以上

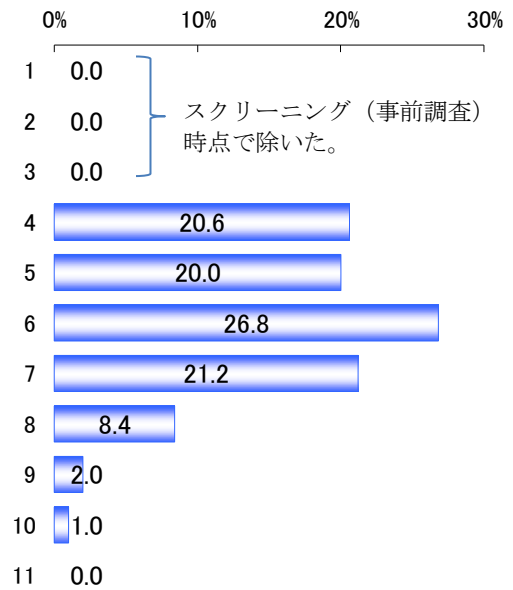
その他 :環境貢献に興味がある人であること

上記の条件になるようスクリーニング(事前調査)を行い、本調査で使うサンプルを抽出した。
本調査のサンプル詳細は、P.7で表とグラフにて記載する。

【スクリーニングの結果についてご報告】

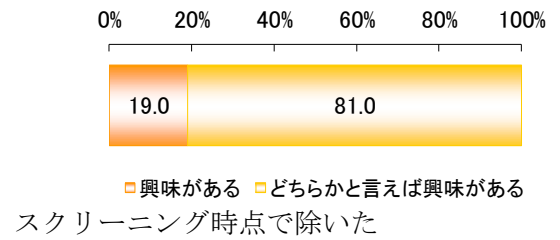
▼世帯年収

		n	%
	全体	500	100.0
1	100万円未満	0	0.0
2	100万円～200万円未満	0	0.0
3	200万円～300万円未満	0	0.0
4	300万円～400万円未満	103	20.6
5	400万円～500万円未満	100	20.0
6	500万円～700万円未満	134	26.8
7	700万円～1,000万円未満	106	21.2
8	1,000万円～1,500万円未満	42	8.4
9	1,500万円～2,000万円未満	10	2.0
10	2,000万円以上	5	1.0
11	わからない、答えたくない	0	0.0



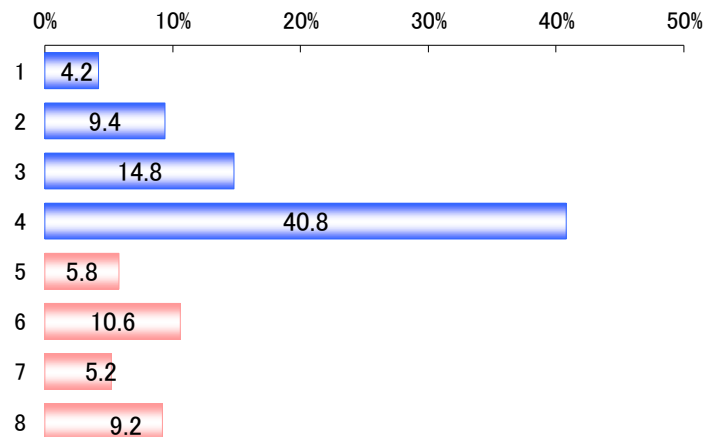
▼「環境貢献」に興味がありますか。

		n	%
	全体	500	100.0
1	興味がある	95	19.0
2	どちらかと言えば興味がある	405	81.0
3	どちらかと言えば興味がない	0	0.0
4	興味が無い	0	0.0



▼性・年代

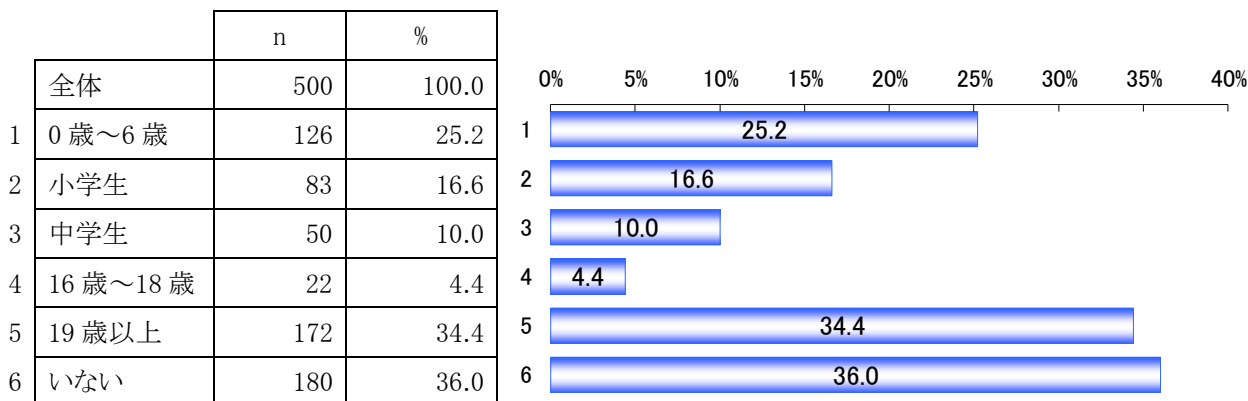
		n	%
	全体	500	100.0
1	男性 25～29歳	21	4.2
2	男性 30代	47	9.4
3	男性 40代	74	14.8
4	男性 60代以上	204	40.8
5	女性 25～29歳	29	5.8
6	女性 30代	53	10.6
7	女性 40代	26	5.2
8	女性 60代以上	46	9.2



割付 :25歳～29歳:50, 30代:100, 40代:100, 60代以上:250

*男女比の割付までは出来なかったため、60代は男性の割合がかなり高い。

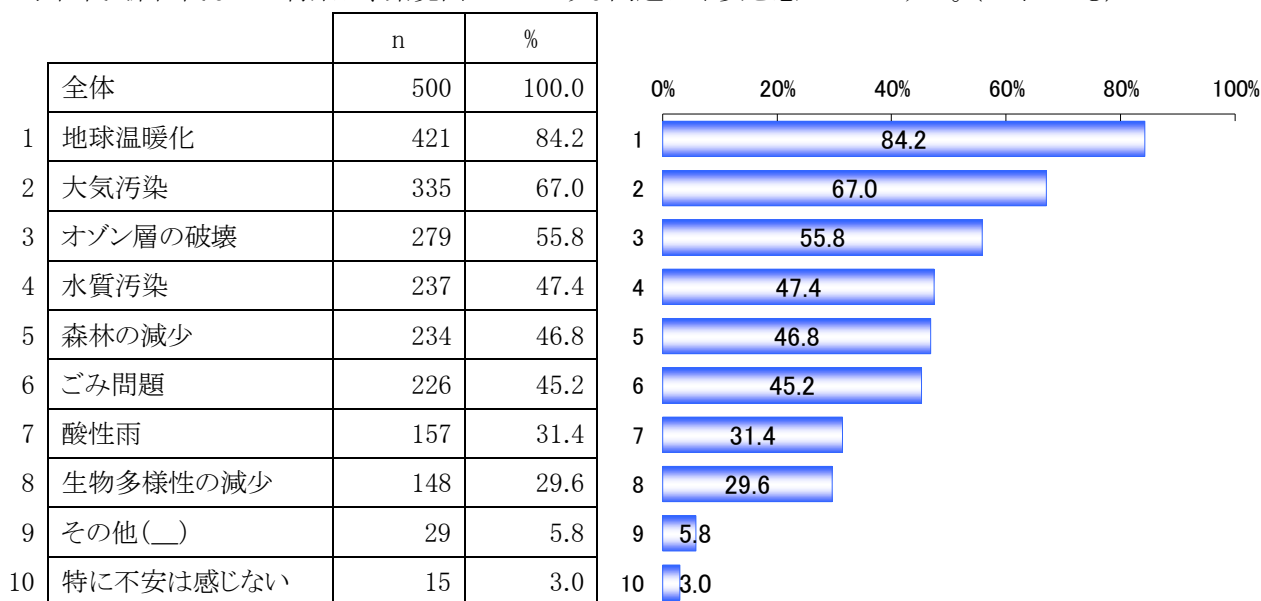
Q1.「お子様又はお孫様」はいらっしゃいますか。(いくつでも)



子ども・孫の年齢は、60代以上の方が半数を占めるため、「19歳以上」が172人と最も多く、続いて、子育て世代の子ども・60代以上の方の孫と重なる「0～6歳」が126人となった。

また、「いない」が180人で一番多いという現代の少子化の世情を表す結果となった。

Q2.子世代・孫世代などの将来に、環境面でどのような問題に不安を感じていますか。(いくつでも)

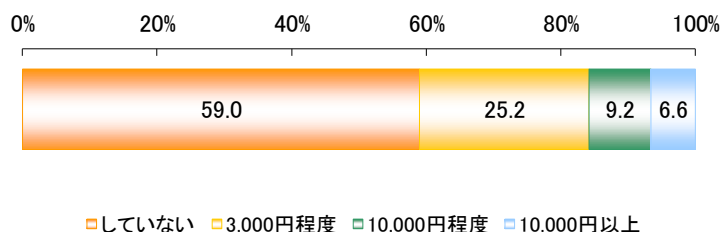


「地球温暖化」421件で500人のアンケートモニターのうち84.2%が問題と感じている。

地球温暖化に及ぼす影響が最も大きい二酸化炭素の排出を削減するには、化石燃料(石炭・天然ガスなど)の使用を抑えることが有効であり、「太陽光発電」は、その解決手段の一つとなる。このことを上手く伝えていくことで、「太陽光発電市民ファンド」は、より共感を得られることであろう。また、その他については、「PM2.5」や「原発の廃炉問題」、それに伴う「エネルギー問題」があげられた。

Q3. 寄付を1年間にどのくらいしていますか。

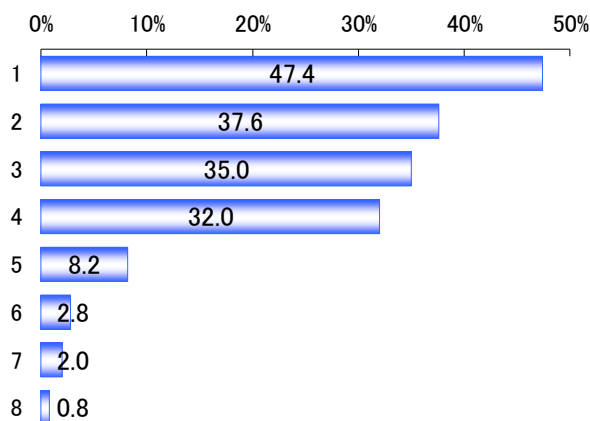
	n	%
全体	500	100.0
していない	295	59.0
3,000円程度	126	25.2
10,000円程度	46	9.2
10,000円以上	33	6.6



1年間の寄付の実態を見てみると、少額の「3000円程度」25.2%が寄付としている人の中では最も多く、「していない」は、59%と半数以上を占めた。寄付の習慣がないアンケートモニターが多い中で、どれだけの人がこの事業への理解を示してくれるのか、続く設問で紹介していきたい。

Q4. ふだん森とどのように関わっていますか。(いくつでも)

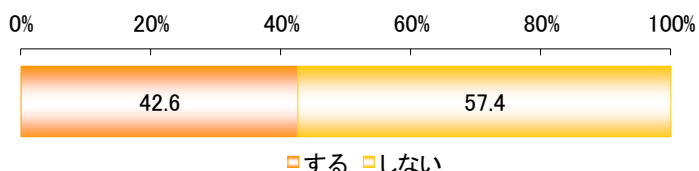
	n	%
全体	500	100.0
1 観光	237	47.4
2 温泉	188	37.6
3 関わっていない	175	35.0
4 森の産物(キノコ、家具、水、薪など)を買う	160	32.0
5 寄付	41	8.2
6 ボランティアとして間伐などを行っている	14	2.8
7 その他()	10	2.0
8 林業に出資	4	0.8



「観光」237件で最も多かった。日本人にとって観光旅行といえば「温泉」がつきものであり、続いて、「温泉」188件となった。後述の配当としてほしいものでも「温泉」は、票を集める結果となった。その他は、自分の山がある、生態系保護観察登山・ハイキング、業務で森林関係の部門がある、環境保全、生ごみリサイクル等、釣り、溪流くだりなどがあつた。

Q5. 「森の元気基金(仮称)」を設立した場合、直接寄付をしてみようと思いますか。

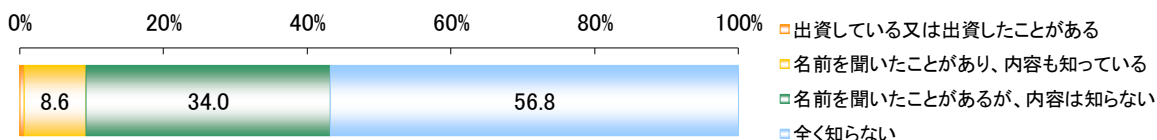
	n	%
全体	500	100.0
する	213	42.6
しない	287	57.4



前述の1年間の寄付の実態にて、少額でも「していない」59%と半数を超える中、「森の元気基金(仮称)」に直接寄付「する」と答えた人が、42%と半数近くを占めた。これは、アンケートに入る前の「お日さま・森プロジェクト」の説明で一定の理解が得られたと言えよう。

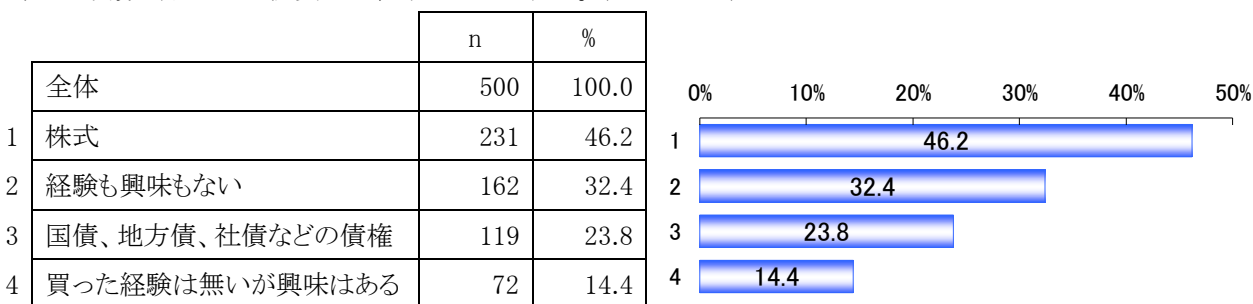
Q6.市民ファンドを知っていますか。

	n	%
全体	500	100.0
出資している又は出資したことがある	3	0.6
名前を聞いたことがあり、内容も知っている	43	8.6
名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	170	34.0
全く知らない	284	56.8



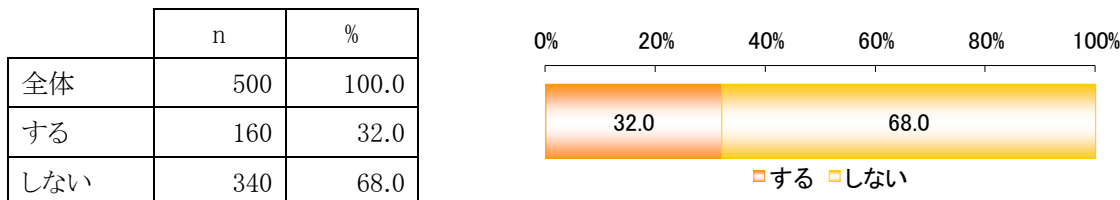
市民ファンドについては、「全く知らない」56.8%と半数以上を占め、続いて「名前は聞いたことがあるが、内容は知らない」34%という市民ファンドの認知度が低いという結果になった。

Q7.今まで債券・株式への投資のご経験はありますか。(いくつでも)



投資として身近な「株式」が 46.2%と半数近くを占めた。一方、「経験も興味もない」が 32.4% 「買った経験は無いが興味はある」14.4%と投資した経験のない人が 46.8%と半数近くを占め、「投資経験がある人」と二分する結果になった。

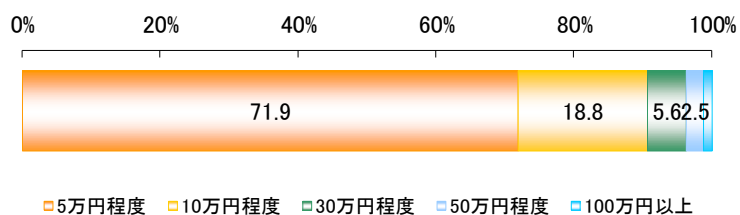
Q8.「お日さま・森プロジェクト」の、太陽光発電市民ファンドに出資したいと思いますか。



太陽光発電市民ファンドに「出資する」32%となった。「森の元気基金(仮称)」に直接寄付したいと答えた人が 42%であったため、それに比べると 10%少ない結果となった。寄付であれば協力できる人であっても、「ファンド」という言葉には抵抗がある人が一部でいるようだ。

Q9.太陽光発電市民ファンドにどのくらいの金額なら出資したいと思いますか。

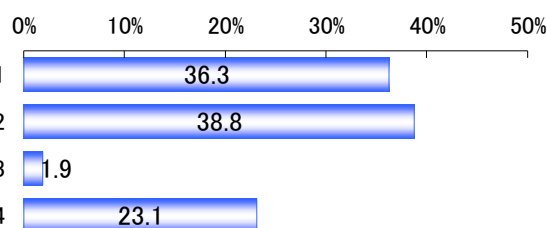
	n	%
全体	160	100.0
5万円程度	115	71.9
10万円程度	30	18.8
30万円程度	9	5.6
50万円程度	4	2.5
100万円以上	2	1.3



「5万円程度」71.9%と圧倒的多数を占める結果となった。1口が投資しやすい金額に設定することで、多くの市民の賛同を得られることが予想される。一方、「10万円程度」18.8%と続き、30万円以上出資できると答えた人も30%近くいる結果となり、個人でもある程度大きな金額を投資できる人もいることが分かる。

Q10.市民ファンドの預かり期間を20年程度と予定していますが、どう思いますか。

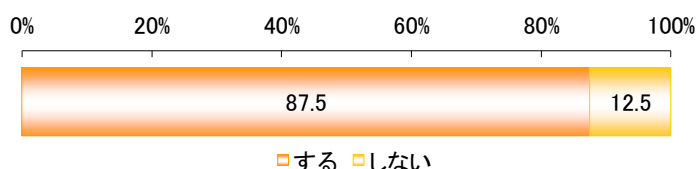
	n	%
全体	160	100.0
1 7年程度であれば出資する	58	36.3
2 10年程度であれば出資する	62	38.8
3 15年程度であれば出資する	3	1.9
4 主旨を考えると期間は妥当	37	23.1



「7年程度」36.3% 「10年程度」38.8%で大きな割合を占めた。予定している20年より短い期間であれば出資すると答えた人が、7割を超える結果となった。「主旨を考えると期間は妥当」と答えた人は、23.1%に留まった。シニア向けの投資には、「子どもや孫への贈与も可能」というオプションを設定することで、もう少し理解が得られることであろう。

Q11.太陽光発電市民ファンドに出資した場合、配当の一部を「森を元気にする基金」に寄付しますか。

	n	%
全体	160	100.0
する	140	87.5
しない	20	12.5



配当の一部を「森の元気基金(仮称)」に寄付「する」答えた人は87.5%と大きな割合を占める結果となった。直接寄付「する」と答えた人が42%であったため、それに比べると約2倍寄付すると答えた。

Q12.配当を「森を元気にする基金」に寄付しない理由をお聞かせください。

▼配当を受け取りたい

- ・配当は、権利として受け取りたい。
- ・出資した配当は、出資したものが享受すべきものとする。
- ・配当は、利益であるから。

▼運営に疑問があるため

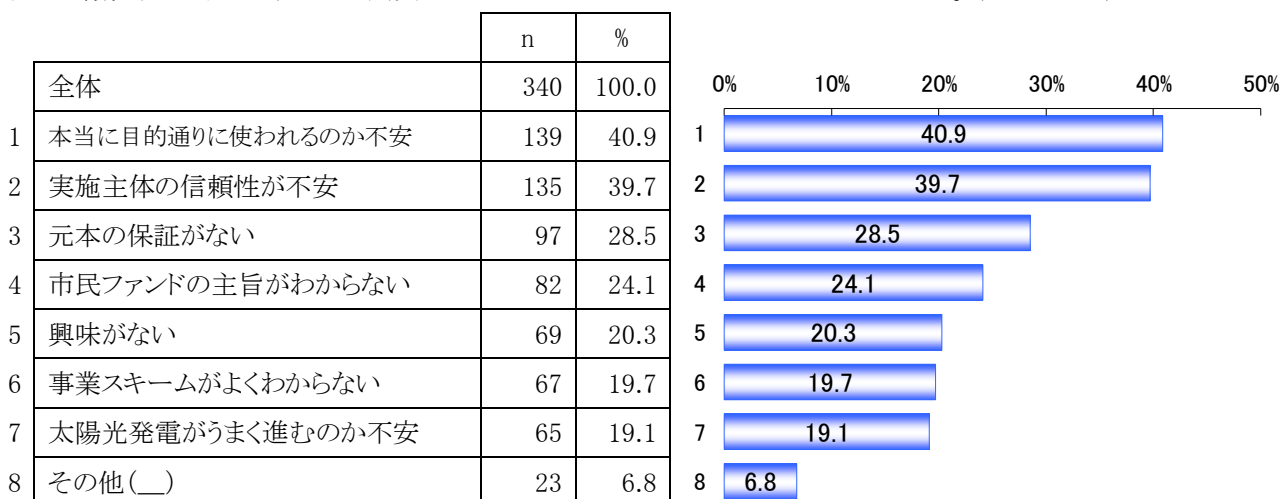
- ・運営など具体的な内容がわからないから。
- ・そんなに配当が出ないと思うから。
- ・寄付をしても実際に役立つかわからないから。
- ・運営など具体的な内容がわからないから。
- ・使い途があいまいである。
- ・事業として配当を行う資金を市民ファンドに求めている以上、個人からの寄付も同時に集めるは不適當だと思う。

▼寄付する余裕がない

- ・森や環境のために出資し、子どもや孫やこれからの子どもたちのために貢献したいと思うが、あくまで投資であり、お金をもうけたいわけではないが、裕福なわけでもないのだから配当は自分たちへのご褒美として楽しみたい。
- ・余裕がない。
- ・寄付を出来るほど余裕資金がないから。

「寄付＝何も受け取れない」と感じている人も多いようだ。寄付をしても森の産物や温泉券など株主優待のようなものが受け取れることをアピールすることで、理解が更に深まることであろう。

Q13.太陽光発電市民ファンドに出資しない理由で当てはまるものをお選びください。(いくつでも)

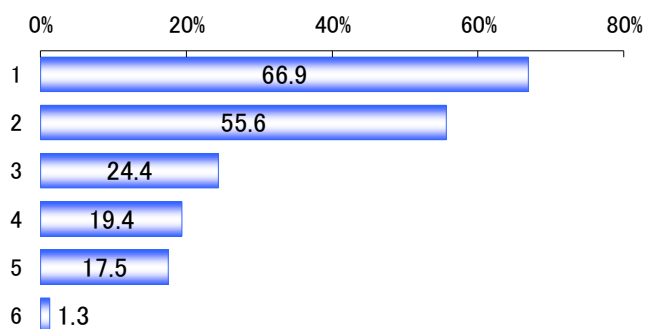


「ファンド」というイメージが世間であまりよくないため、事業に信用・信頼を得られることが厳しい結果となった。天変地異が起きない限り元本が保証される点や主催の信頼性をアピールすることで、その不安も拭われることであろう。

Q14.太陽光発電市民ファンドの配当の一部を、お金以外のものでも充てたいと思います。

あなたが欲しいものをお選びください。(いくつでも)

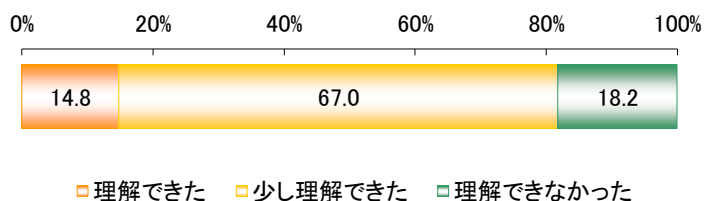
	n	%
全体	160	100.0
1 森の産物	107	66.9
2 温泉優待券	89	55.6
3 グリーンツーリズム体験	39	24.4
4 子ども向けサマーキャンプ	31	19.4
5 林業体験	28	17.5
6 その他()	2	1.3



「森の産物」107件で多数を占める結果となった。秩父に出向かずとも手軽に楽しむことができるため、票を集めたと考えられる。続いては、観光といえば温泉ということで、「温泉優待券」が89件と続く結果となった。

Q15.「お日さま・森プロジェクト」事業スキームについて理解できましたか。

	n	%
全体	500	100.0
理解できた	74	14.8
少し理解できた	335	67.0
理解できなかった	91	18.2



「お日さま・森プロジェクト事業」についての理解度は、「少し理解できた」67%、「理解できた」14.8%となり、概ね理解できた人が81.8%となり、アンケート前の説明が有効であったと言えよう。

本プロジェクトは自然エネルギーの普及と森の機能回復を同時に目指し展開したいと思っています。県内に自然エネルギーを普及させるため、メガワット級の太陽光発電設備を設置する活動を推進したいと考えています。太陽光発電は、国の法律により発電した電気を電力会社へ売ることができます。他方、森の機能回復には、間伐などの作業に資金が必要となります。そこで、その売電収入や寄付を得て「森を元気にする事業」に活用します。自然エネルギーから生み出された資金を森林機能の回復へと、環境活動として新しい方策を実現したいと思っています。その思いを実現するために、市民ファンドの手法を用いて都市に住む多くの方から幅広く資金を集め、市民参加型の太陽光発電設備を設置したいと思っています。そこで、市民ファンドの実現可能性を検討するための市場調査を実施することになりました。何卒ご協力下さい。

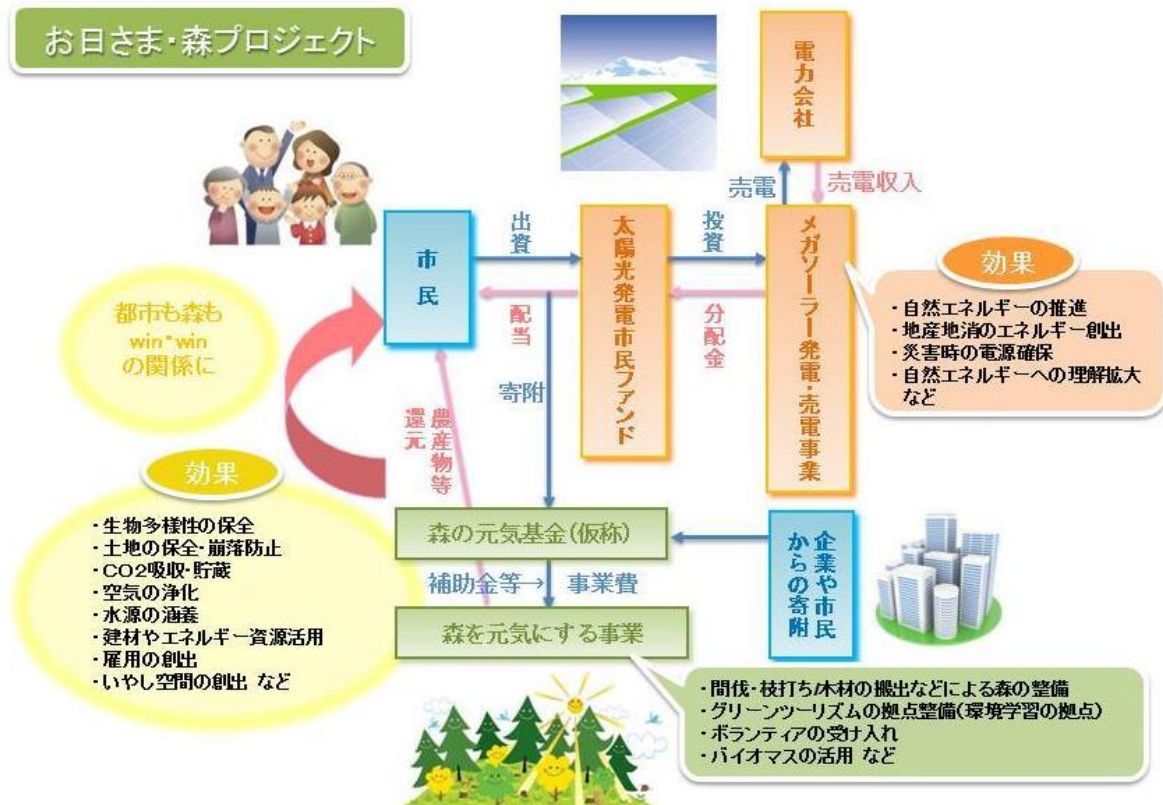
▼市民ファンドとは

市民から出資を募り、集めたお金を運用する事業のことです。売電収入やサービス料金収入から得られる事業収入に応じて、出資者には、元本の返還と利益配分を行います。

市民ファンドは社会的事業などに活用され、地域の社会が良くなることを第一義とします。

→[実例はこちら](#)

[森を元気にする事業の詳細はこちら](#)



1.「お子様又はお孫様」はいらっしゃいますか。

いらっしゃる方はお子様またはお孫様の年齢として当てはまるものをお選びください。

(複数回答あり)

- ・いない
- ・0歳～6歳
- ・小学生
- ・中学生
- ・16歳～18歳
- ・19歳以上

2. 子世代・孫世代などの将来に、環境面でどのような問題に不安を感じていますか？

当てはまるものをお選びください。(複数回答あり)

- ・地球温暖化
- ・オゾン層の破壊
- ・森林の減少
- ・大気汚染
- ・酸性雨
- ・水質汚染
- ・生物多様性の減少
- ・ごみ問題
- ・その他()
- ・特に不安は感じない

3. 寄付を1年間にどのくらいしていますか。当てはまるものをお選びください。

していない 3,000円程度 10,000円程度 10,000円以上

4. ふだん森とどのように関わっていますか。当てはまるものをお選びください。(複数回答あり)

- ・関わっていない
- ・ボランティアとして間伐などを行っている
- ・観光
- ・温泉
- ・森の産物(キノコ、家具、水、薪など)を買う
- ・林業に出資
- ・寄付
- ・その他()

5. 「森の元気基金(仮称)」を設立した場合、直接寄付をしてみようと思いますか。

当てはまるものをお選びください。

*森の元気基金とは、森林の保全をすすめるため基金です。

する しない

6. 市民ファンドを知っていますか。当てはまるものをお選びください。

- ・出資している又は出資したことがある
- ・名前を聞いたことがあり、内容も知っている
- ・名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
- ・全く知らない

7. 今まで債券・株式への投資のご経験はありますか。当てはまるものをお選びください。

(複数回答あり)

- ・国債、地方債、社債などの債権
- ・株式
- ・買った経験は無いが興味はある
- ・経験も興味もない

8. 「お日さま・森プロジェクト」の、太陽光発電市民ファンドに出資しようと思いますか。

当てはまるものをお選びください。

＊「お日さま・森プロジェクト」とは、市民ファンドによりメガ級の太陽光発電を設置し、その配当の一部を森の保全へ充てるものです。そして森と都市が有機的に繋がることを目的とします(詳細は図表を参照ください)。

する ⇒問9～問12へ しない ⇒問13へ

9. 「お日さま・森プロジェクト」の太陽光発電市民ファンドに出資「する」と回答した方に質問です。どのくらいの金額なら出資したいと思いますか。当てはまるものをお選びください。

5 万円程度 10 万円程度
30 万円程度 50 万円程度 100 万円以上

10. 「お日さま・森プロジェクト」の太陽光発電市民ファンドに出資「する」と回答した方に質問です。市民ファンドの預かり期間を20年程度と予定していますが、どう思いますか。

当てはまるものをお選びください。

- ・7 年程度であれば出資する ・10 年程度であれば出資する
- ・15 年程度であれば出資する ・主旨を考えると期間は妥当

11. 「お日さま・森プロジェクト」の太陽光発電市民ファンドに出資「する」と回答した方に質問です。出資した場合、配当の一部を「森を元気にする基金」に寄付したいと思いますか。

当てはまるものをお選びください。

する しない

12. 問 11 で配当を「森を元気にする基金」に「寄付しない」と答えた方に質問です。

寄付しない理由をお答えください。

(フリー項目)

13. 問 8 で「お日さま・森プロジェクト」の太陽光発電市民ファンドに出資「しない」と回答した方に質問です。

出資しない理由で当てはまるものをお選びください。(複数回答あり)

- ・興味がない ・市民ファンドの主旨がわからない
- ・実施主体の信頼性が不安 ・元本の保証がない
- ・事業スキームがよくわからない ・本当に目的通りに使われるのか不安
- ・太陽光発電がうまく進むのか不安

14. 太陽光発電市民ファンドの配当の一部を、お金以外のものでも充てたいと思います。

あなたが欲しいものをお選びください。(複数回答あり)

- ・森の産物
- ・グリーンツーリズム体験
- ・子ども向けサマーキャンプ
- ・温泉優待券
- ・林業体験
- 他()

15. 当「お日さま・森プロジェクト」事業スキームについてお聞きします。一面の画像や文章から事業内容や主旨について理解できましたか。当てはまるものをお選びください。

- ・理解できた
- ・少し理解できた
- ・理解できなかった

「森を元気にする事業」とは

埼玉県の県北に位置する秩父地域では、荒川源流域を中心に、豊かな森林が広がっています。これらの森林は、土地の保全、水源のかん養、地すべりや急傾斜地の崩落防止、空気の浄化や二酸化炭素の吸収・貯蔵、酸素の供給、生物多様性の保全等、多面的で公益機能を有し、私たち都市に生活するものにもさまざまな恵を与えてくれます。

しかし、長年にわたる開発と高齢化や後継者不足などの社会問題により、森林荒廃や耕作放棄などが増大し、森や農地などにおける自然の機能が低下しています。

また荒川の水は秩父の森を源流として埼玉県、東京都を貫流し、最後には東京湾へ流れ込んでいます。流域の多くの住民の暮らしを潤す荒川の清流を継承することが、次世代へ良好な環境を引き継ぐことであり、その結果流域の誰もが健康で安心した暮らしをおくることができます。

そのような、多機能な役割を持つ森林の保全をすすめるため、私たちは都市部に在住する多くの方の賛同を得て、森林機能の回復のために「森の元気基金(仮称)」を立ち上げ、それを元に森と人が有機的につながっていけるような「森を元気にする事業」の費用に活用しようと考えています。そして都市部の人々の参加支援によって、森林地域の活性化をはかり、都市と森の交流を進めていきたいと考えています。

お日さま・森プロジェクト 市民ファンドアンケート結果のご報告
～クロス集計のまとめ～

2013年12月9日
株式会社コックト 飯島直美

「太陽光発電市民ファンド」による「メガソーラー発電・売電事業」実現の可能性を探るべく、インターネットによるアンケート調査を行った。このレポートでは、設問ごと・属性ごとのクロス集計から分かる考察を報告する。今回行った50項目のクロス集計の中から属性における特徴が顕著に出たものにスポットをあて、紹介したい。調査期間・方法・条件は以下のように行った。

【調査期間】

2013年11月20日(水)～2013年11月21日(木)

【調査方法】

インターネット調査

【配信対象条件】

子育て世代(注1)・孫世代にターゲットを絞った。50代は子どもの教育費にお金がかかり、且つ子育て世代・孫世代から外れるため、除いた。また、割付では投資金額に期待が持てる60代の割付を50%に設定し、250サンプル取得した。更に、世帯年収300万円未満は投資への余裕がないと判断し、世帯年収300万円以上の人を対象とした。且つ、環境貢献に興味がない人から回答を得ることは厳しいと判断し、「環境貢献に興味がある」「どちらかと言えば興味がある」人を対象とした。

注1:国民生活白書によると、子育て世代の定義は「これから結婚しようとする人～大学生の子どもがいる世代」

年齢は便宜上20-49歳

回収数 :500サンプル

割付 :25歳～29歳:50, 30代:100, 40代:100, 60代以上:250

年齢 :25歳～79歳(50代は除く)

性別 :男女

配信地域:埼玉県

世帯年収 :300万円以上

その他 :環境貢献に興味がある人であること

上記の条件になるようスクリーニング(事前調査)を行い、本調査で使うサンプルを抽出した。

目次

《属性から分かること》	20
▼子・孫の有無について	20
▼環境貢献への興味について	20
《環境に関して普段感じていること》	20
▼環境面での不安について	20
▼ふだんの森との関わりについて	20
《寄付・投資の経験》	20
▼1年間の寄付について	20
▼投資の経験について	21
《お日さま・森プロジェクトについて》	21
▼「森の元気基金」への直接の寄付について	21
▼「太陽光発電市民ファンド」への出資について	21
▼「太陽光発電市民ファンド」への出資額について	21
▼配当の一部を「森を元気にする基金」に寄付することについて	21
▼「太陽光発電市民ファンド」の預かり期間について	22
▼お金以外の配当について	22
▼太陽光発電市民ファンドに出資しない理由について	22
▼「市民ファンド」の認知について	22
▼事業スキームの理解について	22

《属性から分かること》

▼子ども・孫の有無について

20代、30代の子育て世代を見込んだ層に子どもが「いない」割合が大きくなり、子どもが「いない」は36%と大きな割合を占める結果となった。現代の「少子化」という世相にあわせ、子ども・孫向けだけではなく、子どもがいない層にも魅力的なファンド・基金にしていく必要があるようだ。

一方、シニア層では子ども・孫がいない人は15%に留まり、こちらの層には、子ども・孫向けに魅力あるものにする事で、興味をひくファンド・基金になると思われる。

▼環境貢献への興味について

環境貢献に「興味がある」と答えた中で一番大きな割合を占めた層は、子どもが「いない」43.2%であった。子どもがいる人のどの子どもの年齢より2倍近い割合で高い結果となった。環境貢献に興味がある層は、ふだんの森の関わりでも「寄付」22.1%と答え、潜在力が高いため、やはり子どもがいない層にも魅力的なファンド・基金にしていくことは必須と言えよう。

《環境に関して普段感じていること》

▼環境面での不安について

どの属性で見ても、高い値を示したものは、「地球温暖化」であった。太陽光発電を使うことで、化石燃料の使用を抑えることができること、森の整備により炭を作り、薪ストーブを使うことにより化石燃料の使用を抑えることは、二酸化炭素の削減につながり、地球温暖化の緩和に繋がることを上手く伝えることで、事業への興味・理解を得られると考える。

▼ふだんの森との関わりについて

環境貢献に「どちらかという興味がある」と答えた人は、観光・温泉が大きな割合を占めたが、「興味がある」と答えた人は、観光・温泉の他にも「寄付」の割合が22.1%と「どちらかという興味がある」と答えた人に比べ、5倍近い数字を集める結果となった。環境貢献に興味がある人をターゲットにし、環境にまつわるフェスタやセミナーなどの際にファンド・基金を募ることも良いのではないかと考える。

《寄付・投資の経験》

▼1年間の寄付について

世帯年収で見ると、「300万円～400万円」の「していない」69.9%が一番多い割合となった。やはりこの層は寄付する余裕がないと考えられる。10,000円以上の寄付については、どの世帯年収でも参考値となる値は、10%を切り、世帯年収が高くても、あまり寄付をしていない結果となった。

また年齢層で見ると、寄付していない人は若い層であった。20代では74%と大きな割合を占めた。更に20代女性は、「寄付していない」82.8%と高くなる。「寄付していない」で大きな割合を占めるのは、幅広い年代で女性が占め、30代68%、40代69%となった。女性の方が寄付に対して慎重であることが分かる結果となった。

▼投資の経験について

投資の経験について世帯年収で見ると、500万円～1500万円未満では、「株式」が半数近く占め、大きな割合となった。株式については世帯年収が高くなるほど、投資経験の割合も高い結果となった。やはり、「株式などの投資の経験」と「お日さま・森プロジェクトでの投資・寄付」では異なる傾向となった。また、年代・性別で見ると、「60代男性」63.7%と一番大きな割合となった。一方、20代では「株式投資の経験がある人」は、12%とあまり投資の経験がないという結果になった。

《お日さま・森プロジェクトについて》

▼「森の元気基金」への直接の寄付について

世帯年収で見ると、「300万円～1000万円未満」では、「森の元気基金」に直接寄付すると答えた人が40%強、寄付しないが50%強で平均的な値であった。一方、世帯年収「1,000万円～1,500万円未満」では、寄付を「する」と答えた人が31%で、平均より10%近く下げる結果となった。「世帯年収が高い→余裕がある→寄付をする」という図式は成り立たない結果になった。

また、環境貢献への興味で見ると、森の元気基金に直接寄付を「する」と答えた人は、「環境貢献に興味がある人」では70.5%となり、「どちらかと言えば興味がある人」36%に比べ、倍近い数字を集める結果となった。どの属性よりも明確な違いが出た。

更に、年代・性別で見ると、一般の寄付では20代女性の「寄付していない」が82.8%で大きな割合を占めた。しかし、森の元気基金に寄付すると答えた人で大きな割合を占めた層は、20代女性58.6%となった。普段寄付していない層にも、「森の元気基金」は魅力的に感じたようだ。

▼「太陽光発電市民ファンド」への出資について

全体では、「出資する」は32%にとどまった。更に、子ども・孫が「いない」人は27%と10%近く下げた。子ども・孫がいない層は、「環境貢献に興味がある」43%と潜在力が高いだけに、ファンド・基金の魅力を伝える方法を子ども・孫ありの人とは別の工夫をすることにより、もう少し引き上げる可能性があると考えられる。

▼「太陽光発電市民ファンド」への出資額について

「太陽光発電市民ファンド」に出資する額で「5万円程度」と答えた割合が多いのは、女性90.9%であった。女性はどの年代でも80%以上の人が「5万円程度」と答えた。一方、男性は「5万円程度」と答えた人は64.7%と女性に比べ少なかった。「10万円程度」と答えた女性は、6.8%に留まったが、60代以上の男性では、27.1%の人が「10万円程度」出資できると答えた。このことから、男性のほうが女性より出資に対して理解があることが分かる。

▼配当の一部を「森を元気にする基金」に寄付することについて

全体としては、「寄付する」と答えた人が、87.5%とかなり高い割合になった。特に、子ども・孫の年齢が低い「0～6歳」90.7% 「小学生」96.7%は、更に高い割合となった。やはり子ども・孫の年齢が低いほうが、長期的な事業に対してより興味があると思われる。

▼「太陽光発電市民ファンド」の預かり期間について

全体としては、7年・10年程度であれば出資すると答えた人が7割以上を占めたが、長い期間を答えた人は、子ども・孫の年齢が低い結果となった。「主旨を考えると期間は妥当」と答えた人は、平均で23%に留まったが、「0歳～6歳」では39%と高い割合となった。「0歳～6歳」の親は30代が多く、若い。従って、20年後もイメージしやすいのであろう。また、年代・性別で見ると、女性は、「7年程度であれば出資する」47.7%で半数近くを占めたが、男性は、「10年程度であれば出資する」39.7%が一番大きな割合となった。また、「主旨を考えると期間は妥当」と答えた人では、男性は25.9%と一定の理解があったが、女性においては、15.9%とあまり理解を得ることができない結果となった。

▼お金以外の配当について

子ども・孫の年齢で見ると、「グリーンツーリズム体験」「子ども向けサマーキャンプ」は、「0歳～6歳」28.6%「小学生」32.3%と子ども・孫がいる人に人気があった。一方、「森の産物」「温泉優待券」は、子ども・孫の有無や年齢に関わらず、50%を超える人気があった。

また、環境貢献への興味について見ると、「林業体験」「グリーンツーリズム体験」は、「環境貢献への興味がある」と答えた人30%以上と高い割合になった。やはり「環境貢献に興味がある」と答えた人は、温泉や産物など間接的に関わるだけではなく、直接関わりを持ちたいようだ。

全体的に見てみると、どの属性でも「森の産物」の人気が高かった。しかし、送料のことを考えると5万円の出資額に対してどのくらいのものを送ることが可能であるか、課題があると考ええる。

▼太陽光発電市民ファンドに出資しない理由について

「太陽光発電市民ファンド」に出資しない理由で多かったものは、60代男性「実施主体の信頼性が不安」43.9%と60代男性「本当に目的通りに使われるのか不安」43.9%であった。比較的投資に理解がある男性シニア層も不安要素を感じているため、主体の安定性や出資金の流れを明確にし、ファンドについて丁寧に説明することが必須と言えよう。

▼「市民ファンド」の認知について

「市民ファンド」については、「全く知らない」56.8%で大きな割合を占めた。その中でも、「全く知らない」の割合が高い層はミドル世代で、「30代」66%「40代」68%で、もっとも高い層は、女性「40代」73.1%となった。ファンド・基金を募る際は、「市民ファンド」について十分な説明をする必要があると考える。また、「市民ファンド」の理解が深まることで、「市民ファンド」への理解もより得られることになるであろう。

▼事業スキームの理解について

環境貢献に興味がある人は、「理解できた」と断言できる人の割合が29.5%と、「どちらかと言えば興味がある」11.4%に比べ、高い結果となった。「環境貢献に興味がある」人のほうが、基礎知識があり、今回のアンケートへの理解も得やすかったものと考えられる。全体的には、「少し理解ができた」67%と大きな割合を占めた。より理解を得るためには模式図や説明文だけではなく、出資に興味がある人に対して、実際に説明する機会を得られることが必要と考える。